

つながライン 考案・開発の経緯

仙台往診クリニック 研究部

2

つながラインができた経緯

平成24年度在宅医療連携拠点事業
を受託

仙台市内の医療・介護事業所への
アンケート実施

医療・介護の互いの情報が得にくい
相互のやり取りに難しさを感じている

施設情報を互いに公開し、検索がで
き、連携に役立つツールとして考案

仙台市内多職種対象 アンケート調査結果

平成24年度在宅医療連携拠点事業
仙台往診クリニック

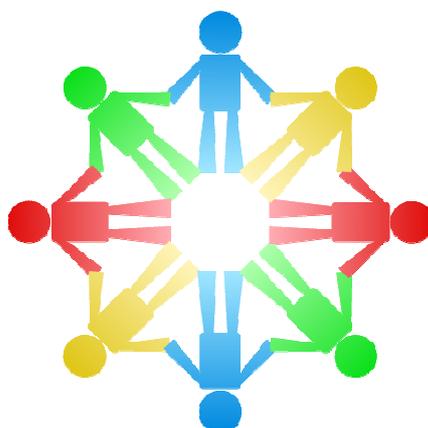
3

1

アンケート調査

<目的>

他施設間・多職種間連携に関する課題の抽出



調査票配布対象

調査票配布対象先 回収数／配布数

- ① **病院** 36／60カ所
(宮城県病院名簿 平成24年4月1日現在より)
- ② **在宅療養支援診療所** 16／55カ所
(東北厚生局届出受理医療機関名簿 平成24年8月6日現在より)
- ③ **在宅療養支援歯科診療所** 15／24カ所
(独立行政法人福祉医療機構(WAMNET)検索 平成24年9月1日現在より)
- ④ **訪問看護ステーション** 21／54カ所
(仙台市介護保険サービス事業者一覧 平成24年9月1日現在より)
- ⑤ **調剤薬局** 101／248カ所 ※うち在宅訪問実施は39カ所
(みやぎ薬局検索「在宅医療」参加とある薬局 平成24年9月1日現在より)
- ⑥ **居宅介護支援事業所** 92／245カ所
(仙台市介護保険サービス事業者一覧 平成24年9月1日現在より)

合計 281／686カ所 回収率 40.1% ⁵

アンケートの主な内容

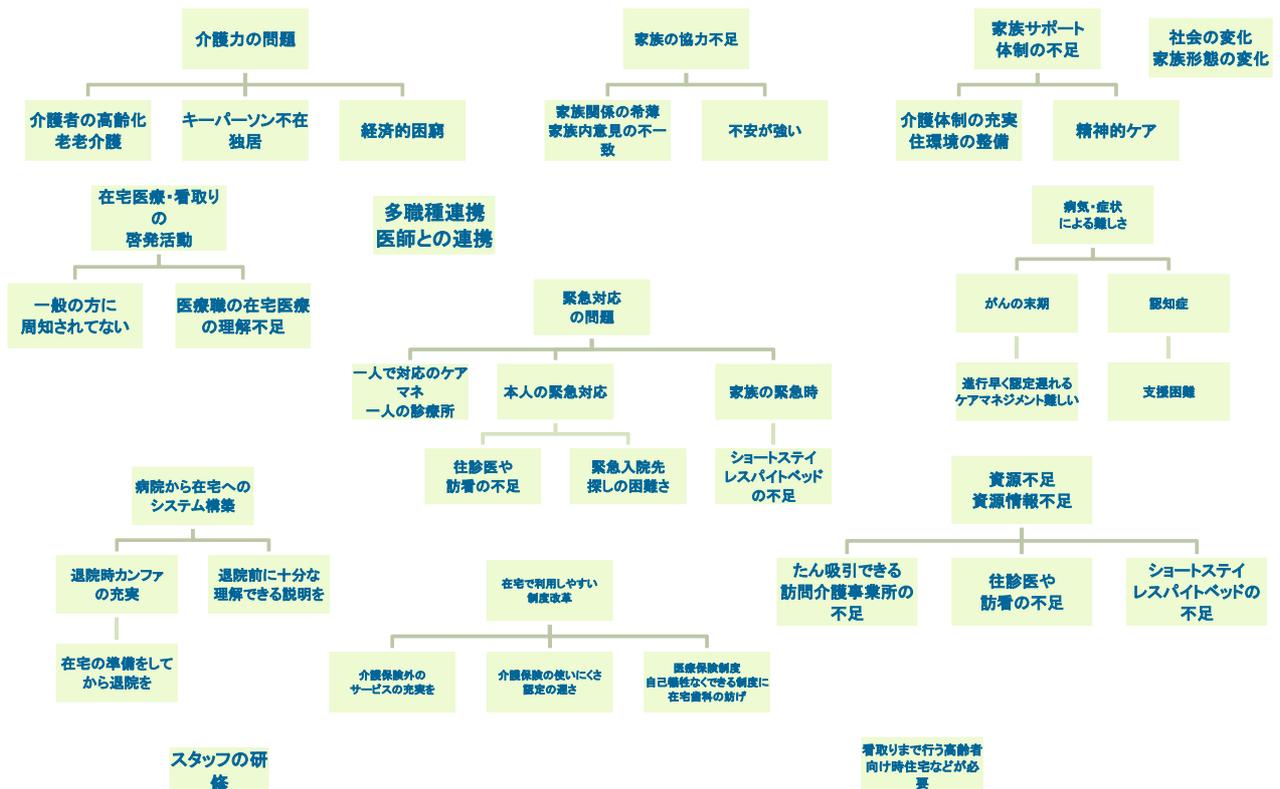
- **在宅で最期まで過ごしたいという方の希望を叶えるための課題(自由記述)**
- **多職種連携のための施設情報・患者情報の共有の課題(自由記述)**
- **他施設との連携に必要な情報および自施設情報の開示について(選択式)**

在宅で最期まで過ごしたいという方の 希望を叶えるための課題

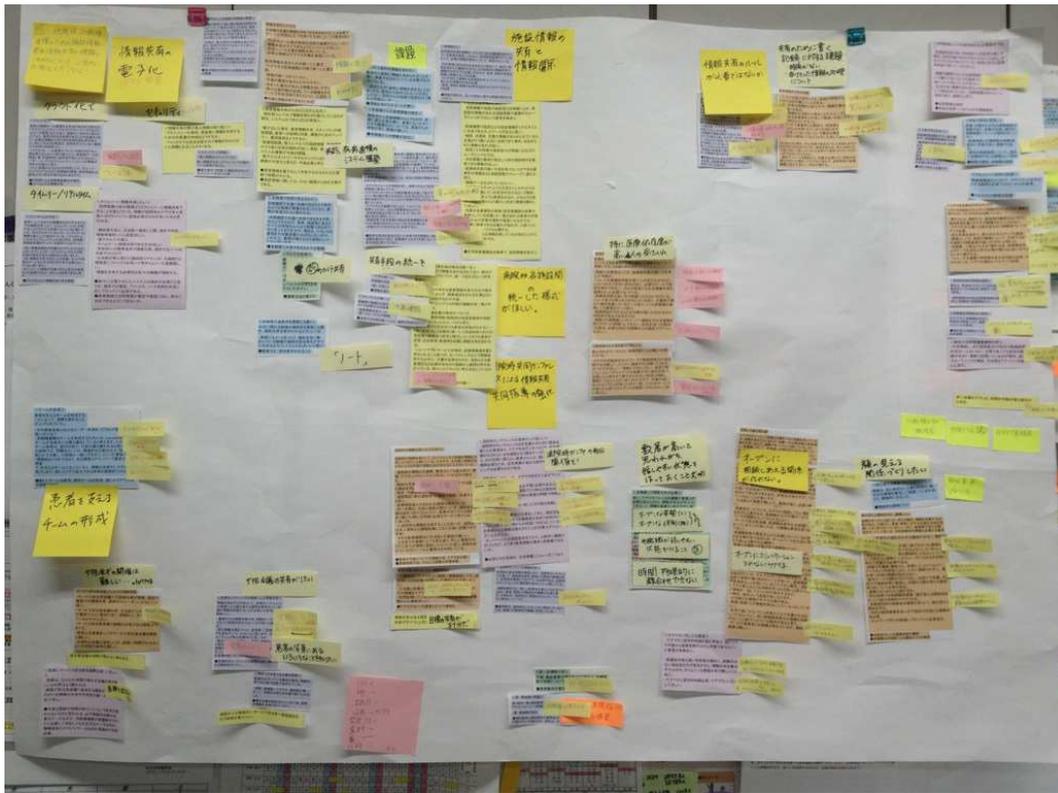


アンケートの自由記述
及び
第1回目つながる会の
アンケート結果は
KJ法で課題抽出

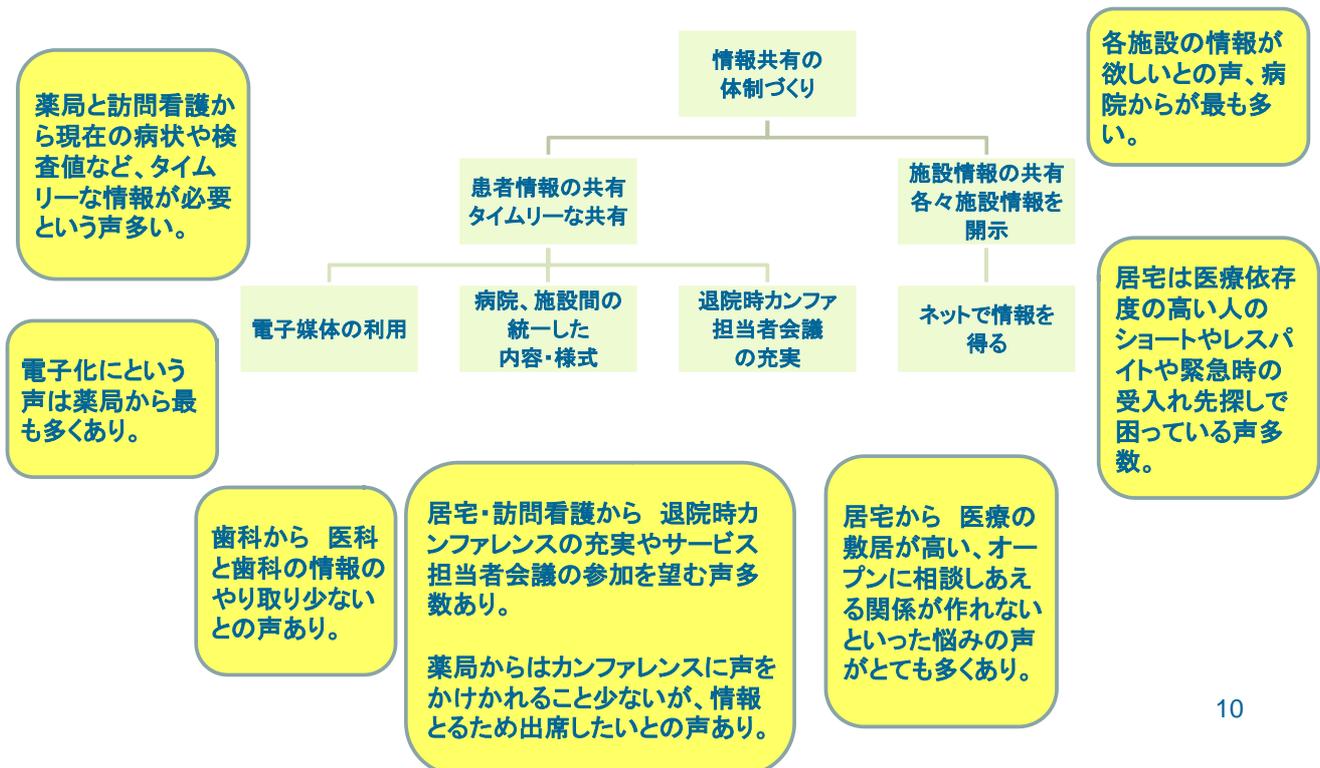
在宅で最期まで過ごしたいという方の 希望を叶えるための課題



他施設・多職種連携のための 施設情報・患者情報共有の課題



他施設・多職種連携のための 施設情報・患者情報共有の課題



情報共有の課題 自由記述 生の声ご紹介

病院

- ・医療機関や施設などの空床情報をリアルタイムに共有できるネットワークがあると良い。
- ・具体的にどのような疾患をみるか、どのような処置に対応可能かなど細かい生きた情報を開示してほしい。
- ・医療相談員、個人レベルでの施設情報、患者情報のやり取り共有の傾向が強い。病診、病病連携のシステム化構築が今後の課題。

在宅療養支援診療所

- ・医療者側からケアマネ等とオープンなコミュニケーションをとっていく中で連携を強化していく必要性を感じます。他職種の方々が情報を遠慮なく伝えやすい状態を作ることが大切なことのひとつかと思っております。
- ・ケアマネや事業所と定期的ミーティングで顔が見える関係を作りたいが、時間的、物理的に困難です。

在宅療養支援歯科診療所

- ・多職種間で共通に利用できるカルテ形式のようなものが、患家、施設等にあり、すべての状態をみんなで把握できるのではと思います。
- ・排他的というのではなく、ある程度コアメンバーで利用者を支えるチームになっていると、情報共有しやすいような気がします。狭いエリアで協力できる体制が現実的では。
- ・情報は、自ら求めないと得られない。

調剤薬局

- ・タイムリーに情報が収集できると、処方の変更なども憶測ではなく、きちんと説明できると思います。
- ・クラウド化や一元管理について、今後在宅での人数を考えると今から取り組みたい。検査データの確認。腎、肝機能、特に、副作用予防のためにわかると良い。
- ・密な情報交換をして、患者様・ご家族のケアも含めやっていかないと。定期的なミーティング等は効果的だと思います。

訪問看護ステーション

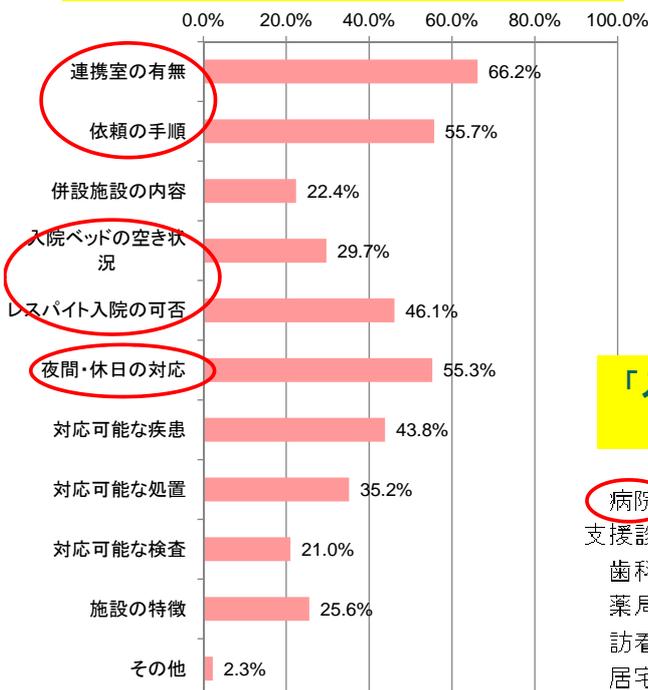
- ・病状変化あり主治医へ報告した際、指示や対応、情報等返信ほしい。
- ・主治医が個人病院だと連絡取りやすいが、大病院だと連携室にファックスを用いて等、タイムリーな連携難しい。
- ・在宅生活・療養生活を送る人の支援体制について周知されていない。訪問看護を知らない人、施設もあり、課題だと思う。

居宅介護支援事業所

- ・医療系サービスにはなかなか相談しづらい雰囲気を出されることがある。医療職の方が、介護についての理解を持ってもらえるとよい。
- ・主治医との連携にとっても気を遣う。忙しい業務の中で、どこまでの情報を提供したらいいか迷う。
- ・スムーズな連携により利用者を支える仕組みが必要だと思います。そのためにはケアマネ側のレベルアップが不可欠と感じます。

病院から得たい情報

病院から得たい情報



「夜間・休日の対応」の情報を得たい業種



「入院ベッドの空き状況」の情報を得たい業種



「レスパイト入院の可否」の情報を得たい業種

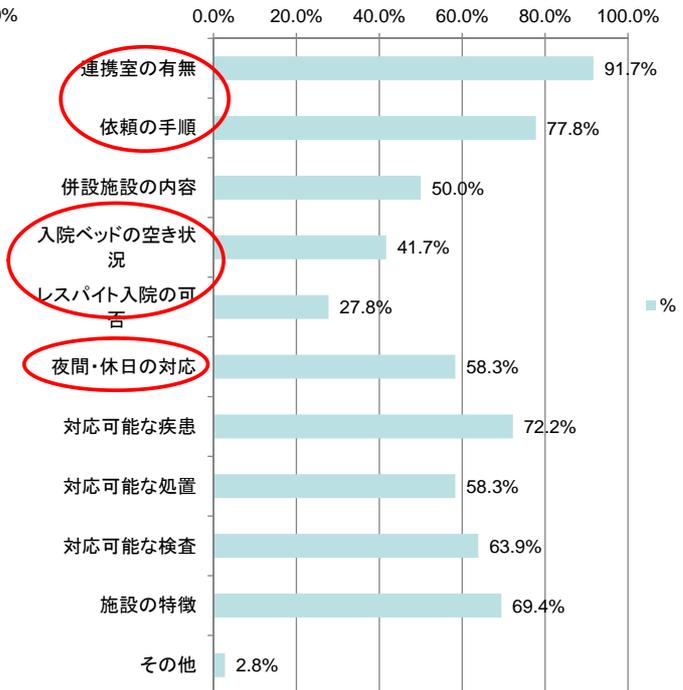


病院が開示できる情報

病院から得たい情報

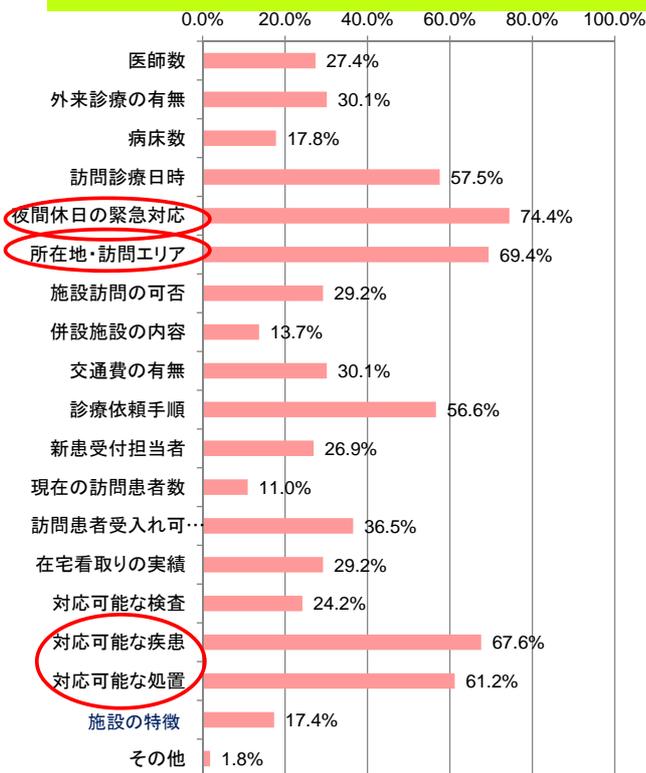


病院が開示できる情報



在宅療養支援診療所から得たい情報

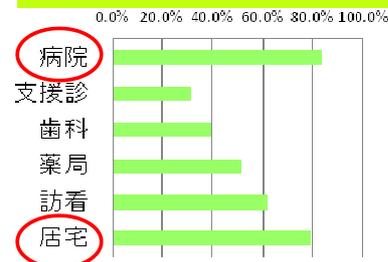
在宅療養支援診療所から得たい情報



「夜間休日の緊急対応」の情報を得たい業種



「対応可能な疾患」の情報を得たい業種

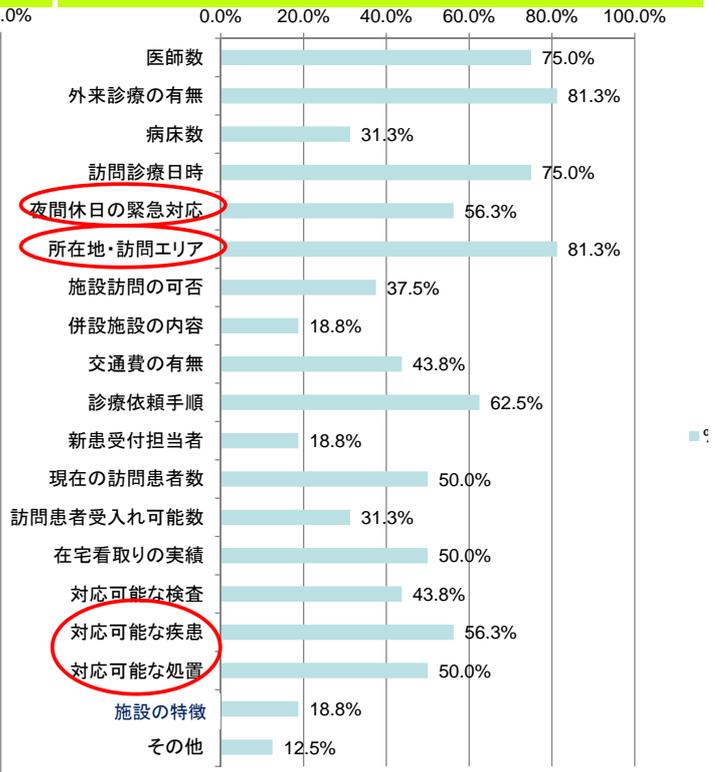


在宅療養支援診療所が開示できる情報

在宅療養支援診療所から得たい情報

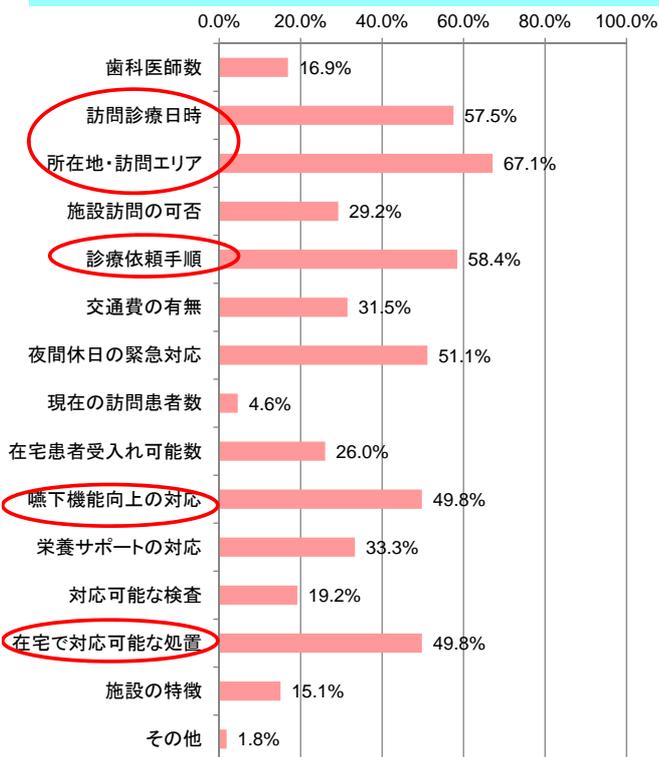


在宅療養支援診療所が開示できる情報

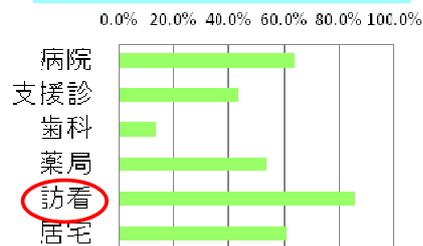


在宅療養支援歯科診療所から得たい情報

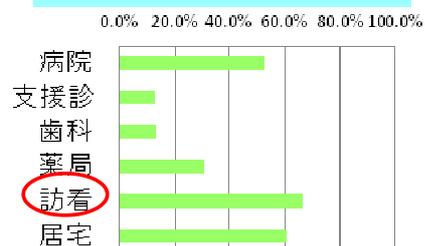
在宅療養支援歯科診療所から得たい情報



「診療依頼手順」の情報を得たい業種

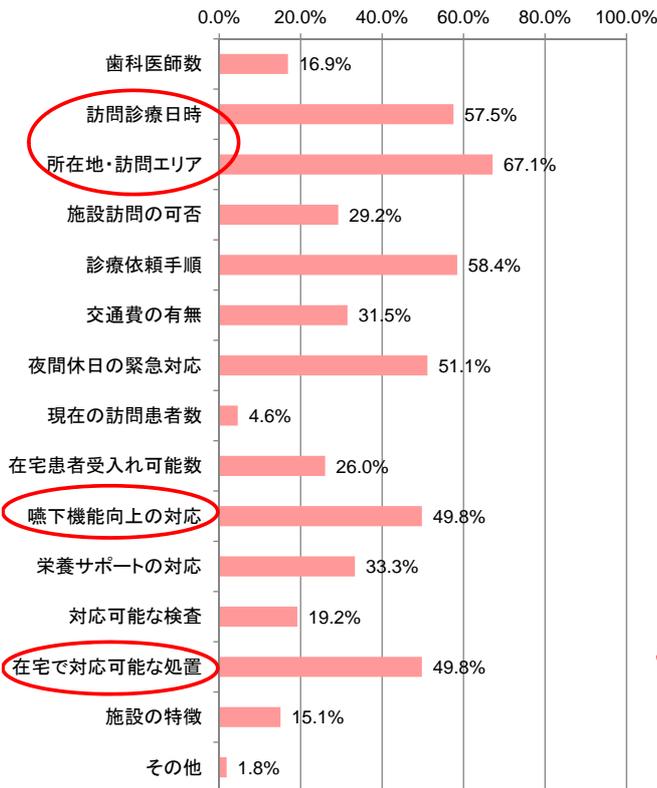


「嚥下機能向上の対応」の情報を得たい業種

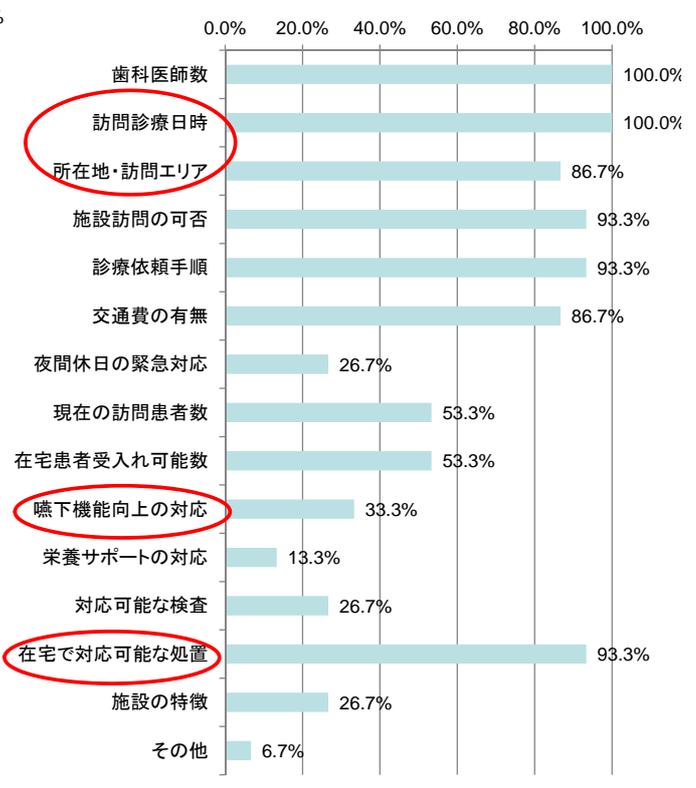


在宅療養支援歯科診療所が開示できる情報

在宅療養支援歯科診療所から得たい情報

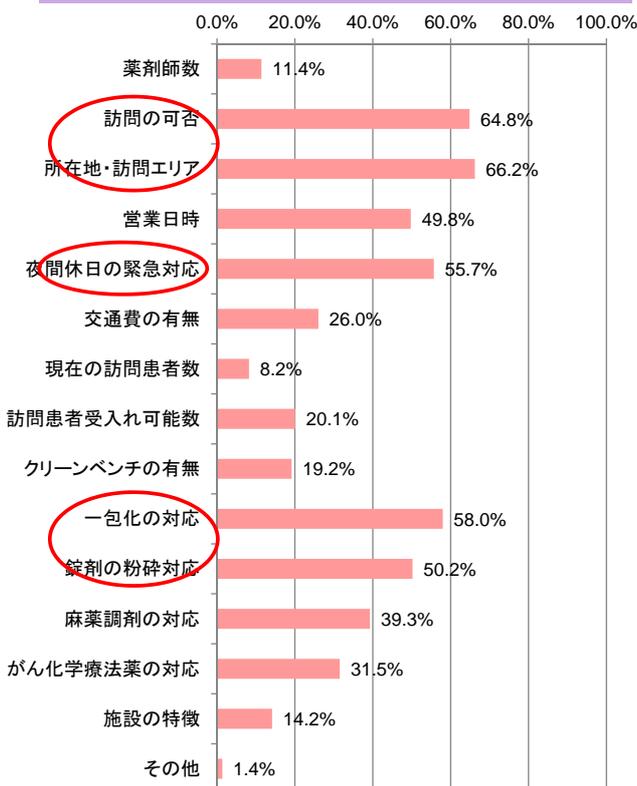


在宅療養支援歯科診療所が開示できる情報



調剤薬局から得たい情報

調剤薬局から得たい情報



「夜間休日の緊急対応」の情報を得たい業種

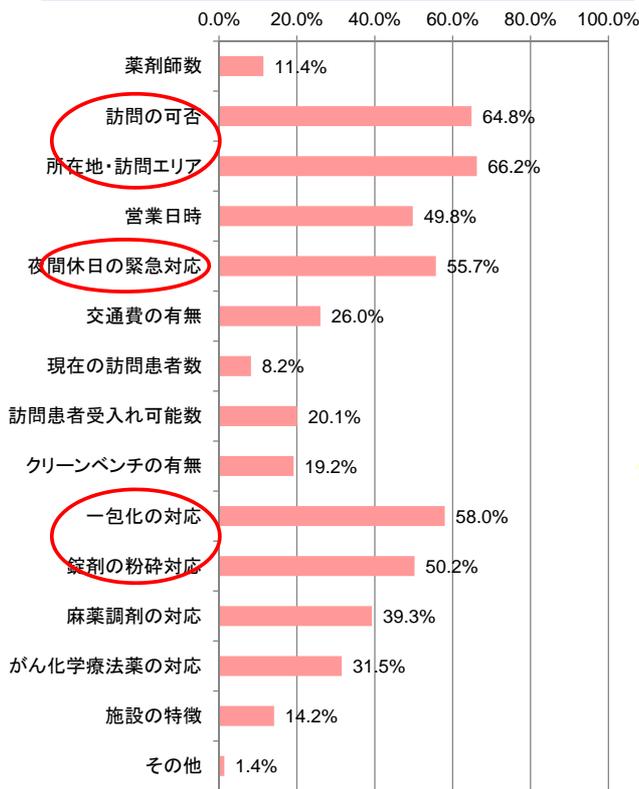


「一包化」の情報を得たい業種

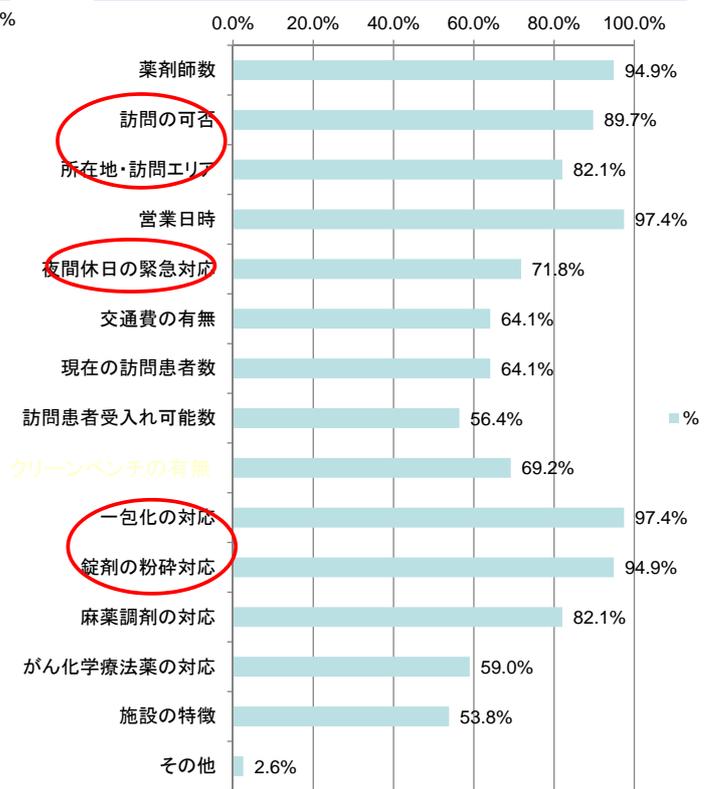


調剤薬局が開示できる情報

調剤薬局から得たい情報

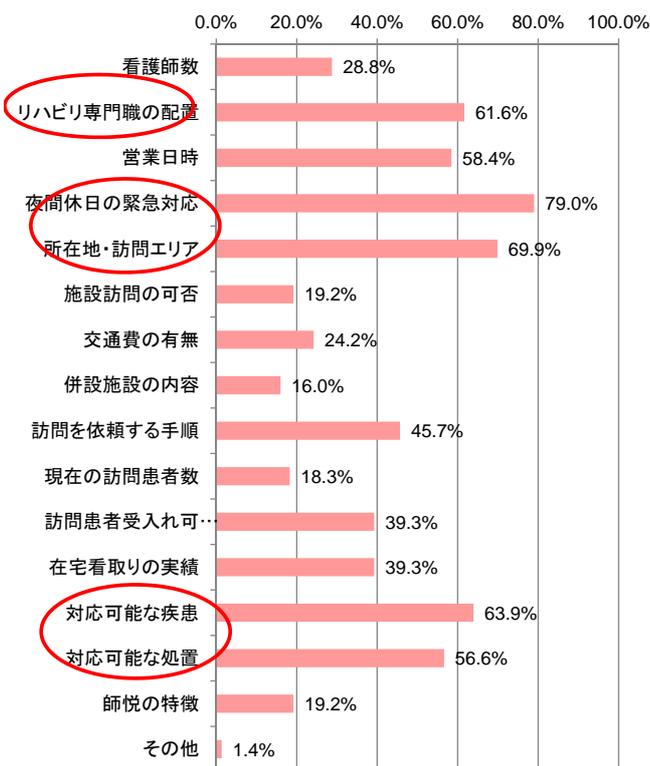


調剤薬局が開示できる情報



訪問看護ステーションから得たい情報

訪問看護ステーションから得たい情報



「リハビリ専門職の配置」の情報を得たい業種

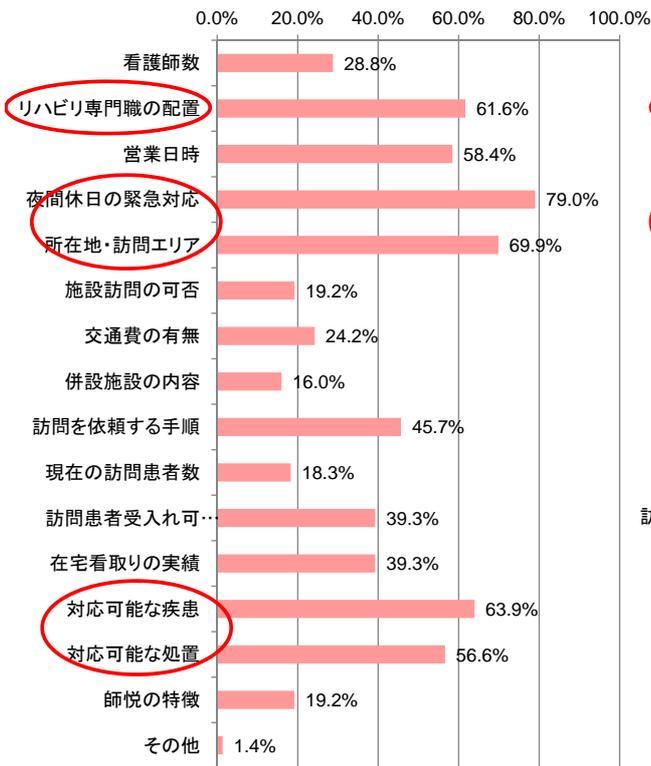


「対応可能な疾患」の情報を得たい業種

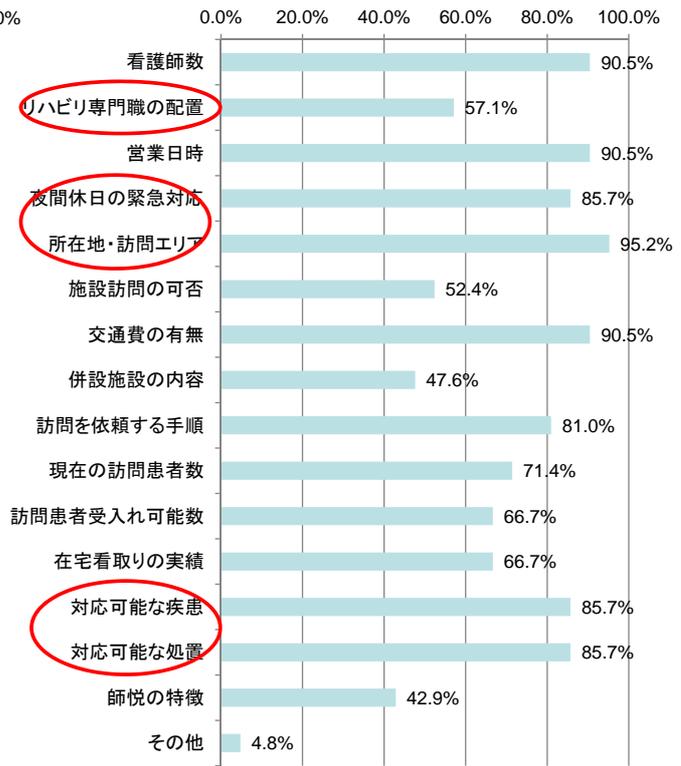


訪問看護ステーションが開示できる情報

訪問看護ステーションから得たい情報

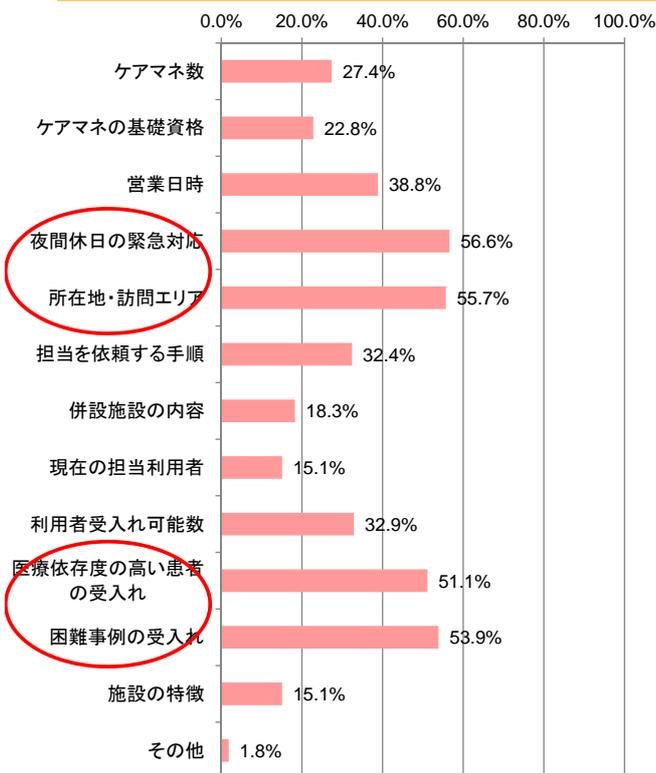


訪問看護ステーションが開示できる情報

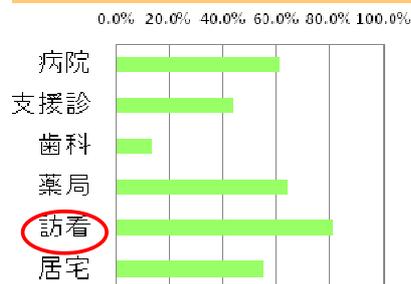


居宅介護支援事業所から得たい情報

居宅介護支援事業所から得たい情報



「夜間休日の緊急対応」の情報を得たい業種

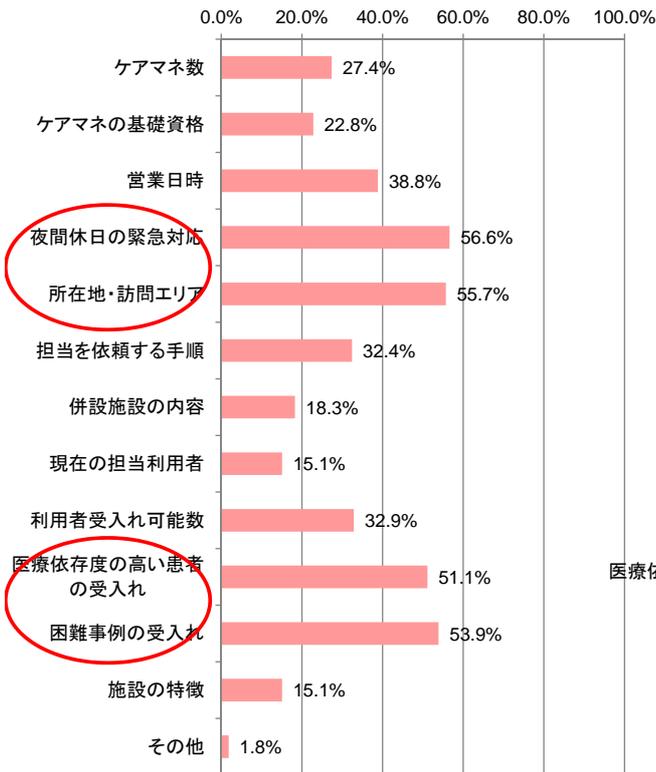


「医療依存度の高い患者受入れ」の情報を得たい業種

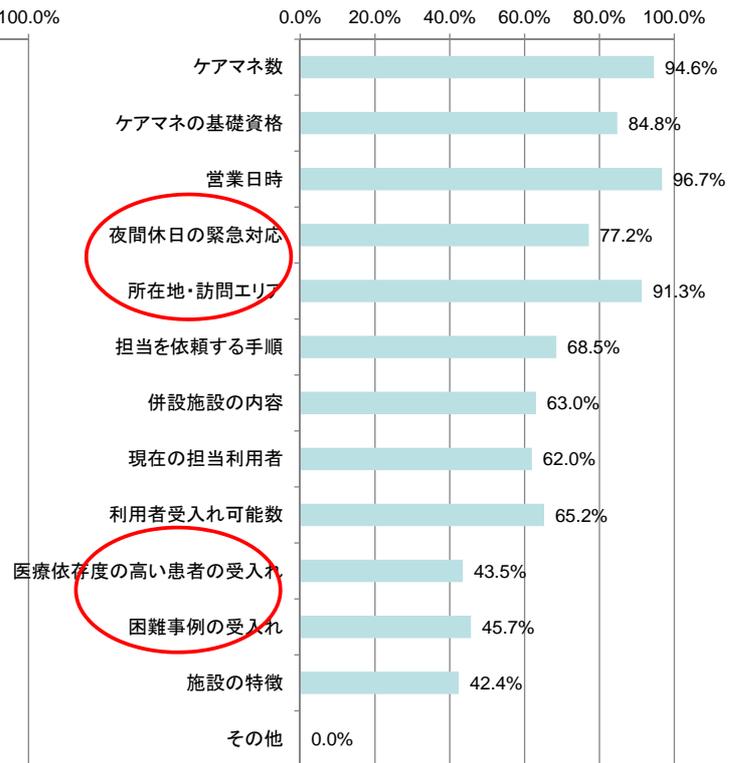


居宅介護支援事業所が開示できる情報

居宅介護支援事業所から得たい情報



居宅介護支援事業所が開示できる情報



「在宅で最期まで過ごしたいという方の希望を叶えるため」の対応策

啓発

地域住民に対する
在宅医療・看取りの啓発
早い段階から

情報共有 連携

患者情報の共有
施設情報の共有による
連携体制構築

研修

多職種合同・職種別研修会
多職種合同カンファレンス
看取りのケアマネジメント研修
病院スタッフへの在宅医療研修

制度

在宅で生活しやすい制度
自己負担の軽減

アンケート結果を踏まえて

在宅医療の普及啓発

⇒パンフレット作成「知っておきたい在宅医療のこと」

情報共有の必要性

⇒施設情報共有システム「つながライン」
考案